【報告書様式】　　令和５年度

団体名　**沖縄県立沖縄水産高等学校**	連絡先　TEL：**098-994-3483** Eメール：**school@okisui-h.open.ed.jp/**

１　実践事項（　②　）

「各科・系列の研究・実践を通した専門知識・技術の習得と学力向上」

２　実践内容

（１）海洋技術科【航海類型・機関類型】における主な取り組み

・小高連携教育：海洋基本法（海洋基本計画）を念頭に、海洋教育推進に向け取り組んでいる。

・小中学校への出前授業や海洋教育体験学習「わくわくセカンドスクール」を実施し、リトルティーチャー制度を積極的に導入している。

（２）海洋サイエンス科【海洋生物類型・マリンスポーツ類型】における主な取り組み

【海洋生物類型】

・シラヒゲウニ陸上養殖簡便化の研究（企業連携あり）

・アクアリウム水槽メンテナンス低減に関する研究

・沖縄の漁業を元気にするために地元漁協と連携した取り組み

・軽石や水道水軟水化の際に出る廃棄物を利用した新たな製品の開発

・糸満市立高嶺小学校と連携した、シラヒゲウニを使用した環境教育（人工授精から放流まで）

【マリンスポーツ類型】

・資格取得のため、学科と実技をリンクさせた学習。
潜水士、潜水技術検定１級・２級、水産海洋技術検定
Ｃカード：オープンウォーターダイバー・レスキューダイバー
２級小型船舶操縦士、特殊小型船舶操縦士。

・安全管理、危機管理を徹底するための、学科と実技をリンクさせた学習。
ダイビングの絶対条件は「絶対に命を落とさないこと」である。ブリーフィング（事前打ち合わせ）とデフリーフィング（事後の反省会）を強化して、目的と達成度を明確にするように留意している。

・沖水祭（文化祭）での研究発表にむけての海ゴミに関する学習。

（３）総合学科における主な取り組み

【流通ビジネス系列】校内販売実習（模擬株式会社）を通して、ビジネス活動の一連の流れを体験する。
資格取得に向けた取り組み。

【食品科学系列】小学生に対するかまぼこ製造講座・食品技能コンテストの取組・課題研究における新商品の開発・食品技能検定、HAACCP 基本技能検定・食品衛生責任者取得　等の取組

【生涯スポーツ系列】生徒が主体となって行う、野外実習、沖縄の伝統芸能（エイサー）への取り組み、体力・持久力の向上に向けた持久走の授業、校内持久走大会の実施、各種スポーツ体験、専門学校と連携した特別授業、地域イベントへの参加、ボランティア活動。

【情報通信系列】情報通信に関する各種資格・検定試験の対策を授業や実習をとおして準備する中、基本的な計算能力を身につけさせることで、基礎学力の向上に繋げている。

【服飾調理系列】生徒の実態に即した新しい情報の提供や、視聴覚教材などの活用。
実験・実習が生徒の資質や能力に密接に関わるため、実践的・体験的な学習活動を多く取り入れている。

【 福 祉 系 列 】沖縄県介護技術コンテストへの出場。福祉を学ぶ高校生研究発表会への参加。
特別支援学校との交流学習の実施。福祉分野における課題研究の取り組み
ボランティア活動推進校指定事業。
福祉関係資格取得に向けた取り組み（介護に関する入門研修、認知症サポーター養成研修、介護職員初任者研修、福祉用具専門相談員指定講習会、同行援護従業者養成研修（一般過程、応用課程）、社会福祉・介護福祉検定）

（４）普通教科科目における主な取り組み（主に１学年）

①国語：漢字練習ドリルの活用と年３回の確認テスト実施。

②社会：「主体的な学び」について
授業で学んだことに関して、５ｗを用いた問題の作成を行っていることで、歴史を５ｗの視点を通して捉えることが出来るようになってきた。
「対話的な学び」について
作成した問題を通して、問題作りの方法などについて議論が行われている。
「深い学び」に向けて
Ｒ８０を通して、文章を二分にして表現する力がついた。

③数学：習熟度別学習によるきめ細かな学習指導。
ICT を活用した授業の実践。

④理科：実験・実習等の実体験や ICT を利用した模擬体験を中心とした、興味・関心を持たせる授業の工夫と実践。また、専門教科との横断的な学習内容を含んだ授業展開の工夫。

⑤英語：授業の理解と学習内容の定着を目的とした授業プリントの工夫、英語のコミュニケーション能力をはかるパフォーマンステストの実施。

３　説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（各科・系列の活動や実績等については,本校ホームページをご参照ください。）

４　成果

海洋技術科、海洋生物類型を中心とした取り組みの成果により、学力や意識の両面において目的意識を持った意欲の高い生徒の入学が増加傾向にある。小中高連携教育を通してリトルティーチャー制度を推進し、日頃の学習成果や課題研究の発表の場を設けたことで、キャリア教育形成能力が向上している。また、産学官連携教育では、進路を見据えた海運会社へのインターンシップを行うことでミスマッチの減少に繋がっている。

「わくわくセカンドスクール」などを通して小学生に教える経験が各自の学習を促し、生徒の学力向上に少なからず影響していると考える。

５　課題

今後は、Society5.0 に向けた人材育成や教育 DX の普及推進が喫緊の課題となっている。
また、各科・系列を越えた横断的、全体的な学力の底上げを目指した取り組みに励んでいく。